

**製品名: mTERF ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14208**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	46kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MTERF
別名	MTERF; Transcription termination factor; mitochondrial; Mitochondrial transcription termination factor 1; mTERF
遺伝子 ID	7978.0
SwissProt ID	Q99551
免疫原	抗血清はヒト MTERF 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 267-316

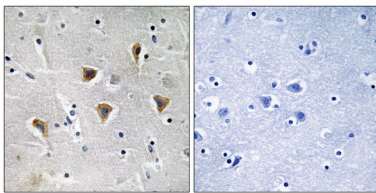
**背景**

この遺伝子はミトコンドリア転写終結因子をコードしています。このタンパク質はミトコンドリアゲノムからの転写を減衰させる役

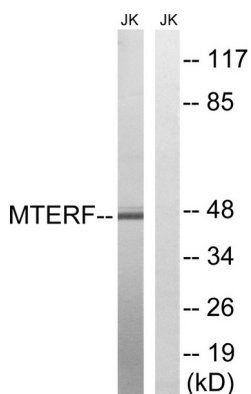
割を果たし、この減衰により、下流の tRNA 遺伝子と比較して 16S リボソーム RNA の発現レベルが高まります。この遺伝子産物は、DNA 結合に必要な 2 つの基本ドメインに囲まれた 3 つのロイシンジッパーモチーフを有しています。このタンパク質では、ジッパーが DNA 結合に必要な 3 次元構造を確立する分子内相互作用に関与しているという証拠があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン: 3 つのロイシンジッパー (そのうち 1 つは二分構造) と 2 つの広く間隔を置いた基本ドメインで構成されています。ロイシンジッパーが分子内 3 本鎖コイルドコイルを形成し、基本ドメインをまとめて DNA 結合モチーフを形成するという証拠があります。機能: 転写終結因子。tRNA(Leu(uur)) 遺伝子内の 28bp 領域、16S rRNA 遺伝子のすぐ下流に結合し、正確な終結を誘導するために重要な 13 量体配列を構成する。終結活性にはおそらく 1 つ以上の構成要素が必要である。PTM: 主に 4 つのリン酸基を持つリン酸化タンパク質。DNA 結合活性はリン酸化状態の影響を受けないが、終結活性にはリン酸化型タンパク質のみが活性を示す。機能はリン酸化によって制御されていると考えられる。類似性: mTERF ファミリーに属する。サブユニット: モノマー。

## 研究分野

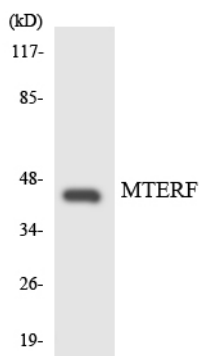
## 画像データ



MTERF 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MTERF 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MTERF 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。